

2012年6月4日(月曜日)の東京新聞にて 弊社社長の記事が掲載されました。

パン・アキモト社長 秋元 義彦



弊社は、昨年の東日本大震災後の計画停電を経

験し、一大決心をしまし

た。「東京電力にあまり頼らない！方策を見つかる」。自らが発電に関わり、節電にチャレンジするということですが、あの計画停電の期間中、市民や企業はかなり

一般的に、パンを作る工程では、おむね六時間以上の連続作業がありますが、弊社の「パンの缶詰」製造ラインでは、さらに三時間程度が必要です。すべての工程で電

至言 提言 とちぎの 現場から

気の使用があります。早朝六時からの計画停電の前に、全ての作業を終了していました。逆算すると、前夜九時ごろの作業スタートでした。

さらに、停電実施が前日に決定すること、実際に決定すること、実

品注文急増や、義援物資製造に追われ、猫の手やネズミの手(笑)も借りたい状況でした。そんな経験から、またゼロで電力不足が予想される「夏」に備え、今年二月から補助的にディーゼルエンジンを利用した自家発電を始めました。

また来る電力不足の夏

脱「東電」で知恵絞る

万が一に備えて、節電のためですが、東京電力と、関連の保安協会が冷やかな態度で接してきたのは、驚きと怒りを覚えました。「電気を扱うのは素人には無理

だ。われわれの指導に従えよと言わんばかりの、上から目線の態度でした。また、七月からの自然エネルギー発電の固定価格買い取り制度に強い関心を持ち、太陽光発電を、百キロワットの規模で行うことを決意しました。

自由に使えた時代の終焉と、個人と企業は自立自助の精神で、自らを守らないといけない電気環境になったと感じます。次々に暴露される東電や政府の「隠していた事実」に、怒りを超えてがっかりの連続ですが、子どもや孫たちのためにも必死になって「知恵」を絞りたいものです。